大谷スカウト通信

2016 秋

大谷スカウト連合協議会

2015年 事業報告

７月６日	委員会（総会）
７月 29～ ８月７日	第 23 回世界スカウトジャンボリー　大谷派ブース開設 日本仏教スカウト協議会事務局（担当宗派：大谷派）
2 月 27-28 日	第３回東西スカウト合同研修会兼第 26 回大 S リーダー研修会
3 月 26-30 日	第 57 回大谷スカウト名誉奉仕訓練
常任委員会	７月６・７日・10 月 19 日・12 月 17 日・5 月 16 日

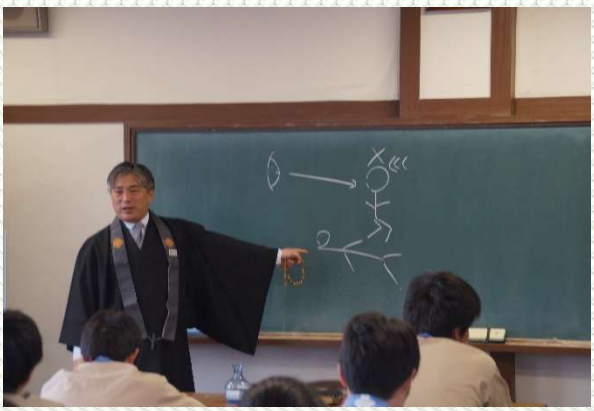
第５７回　大谷スカウト名誉奉仕訓練

クォーターマスター　大橋　友祥

今年もまた、３月２６日から３０日まで真宗本廟同朋会館を会場にして第５７回大谷スカウト名誉奉仕訓練が開催されました。

当初予定していた経森団委員長が体調を崩し、急きょ石神委員長が引き受けることになりました。今年の参加者は１９名と例年に比べて少なく、隊スタッフもコンパクトな人数となったために、奥田隊長以下各自の負担も多く多忙を極めましたが、充実した本部奉仕になったようです。

参加者は、不安と心配をいっぱいに抱えた初日を経て、経験したことのない９０分の講義が続く二日目も終わる頃になると、見知らぬ同士の心が、ガチガチに凍っていた氷が溶けだすように何でも言い合える仲になりはじめます。規則正しい団体生活が身に付き始めるとともに、次第に９０分の講義にも慣れ、特別講義が中の３日目は、竹橋太先生（本廟部出仕）の講義・班別座談・講義・班別座談を通して、スカウトたちは日常生活で経験する数々の理不尽なこと



を解決する、手掛かりのようなものを感じることができたようです。

「プロジェクトハイク」では、親鸞聖人得度の地青蓮院などの旧跡を訪ね「宗祖伝」を現場で目の当たりにし、再確認できる感動を体験しました。「大営火」では、各班の選び抜かれたキャラによるスタンツはとても魅力のあるものでした。

4泊5日のこの不思議な体験を、是非とも後輩のスカウトたちに参加をすすめることが、より多くの大谷スカウトの仲間をつくるきっかけにもなります。また、明年は大谷スカウト連合協議会が結成されて60年という節目の年を迎えます。現在、妙高高原池の平を会場にした全国大会が計画されています。今回の名訓参加者は勿論、若い大谷スカウトたちには、隊の引率や本部のプログラム運営のサポートなどに、大きな期待のかかるところです。是非とも、「大谷スカウト60周年記念行事」に参加して、第57回名誉奉仕訓練のつどいを再現させていただきたいと思います。

第 27 回　大谷スカウトリーダー研修会に参加して

柏第 1 団 VC 隊長　武田　佐代子（東京教区）

9 月 18 日から 19 日の 1 泊 2 日、新潟県妙高高原池の平青少幼年センターにて「第 27 回大谷スカウトリーダー研修会」が開催され、全国から大谷スカウト指導者 28 名が参加しました。

今回の会場は、まさに野外における青少幼年教化活動の原点ともいえる地であることから、団の仲間を誘い迷わず参加を希望しました。

テーマは「夢の先へ」ということで、宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌を終え、新たなる歩みを始めるつどいを開催するというものでした。

記念講演では、高岡教区の黒川紘紀氏より池の平青少幼年センターの歩みについて貴重なお話を聞くことができました。

続く野外料理活動では、「ポリ袋で作る非常食作り」に挑戦しました。あいにくの雨の中、四班のチームワークが試される時間でした。「カレー味はいけるね！」とか「袋の空気をちゃんと抜かないと浮かんでしまってうまく茹でられない！」などワイワイ賑やかに取り組むことができ、良きプログラムのヒントをいただきました。

夕事勤行では物故者追弔会も勤められ深く深く心に刻まれる時間となりました。

夜は、いよいよ研修のクライマックス「営火のつどい」が催されました。雨天のため室内になりましたが、スタンツは班ごとに「成道」「四門出遊」「山伏弁円」「キサー・ゴータミー」を題材として演じました。アドリブあり、身体を張っての大熱演もありヤンヤヤンヤの大盛り上がりでした。大橋副委員長からは貴重な講評をいただきました。「持ち時間を守る」「火を背景に効果的に活用する」といったポイントを押さえてスカウトの講評をすると良いというアドバイスは、ぜひ原隊で生かしたいと思いました。また笠を被り袈裟をまとった井上新委員長のお姿はまさに親鸞聖人そのもので、お言葉が心に染み入ってゆく様子が参加者から伝わってきました。

翌朝はバス移動にて、ガールスカウトの聖地「戸隠ガールスカウトセンター」を視察する機会を得て、美しく整備された場内の様子に感銘を受けました。貴重な機会を与えて下さり感謝申し上げます。昼食後、日本の滝百選にも選ばれた「苗名滝」を鑑賞し見学コースを後にしました。

大谷リーダー研修では年齢を超えてスカウティングと信仰を考えることができます。来年の 60 周年記念全国大集会はここ池の平で行われます。大いに期待を寄せています。

報告　京都に３２名が集結！

奥羽教区大谷スカウトのつどい

期　日　2016 年 3 月 26 日（土）～28 日（月）

奥羽教区委員長　下妻　正規

奥羽教区大谷スカウト訓練の実施 50 回を記念して、本年 3 月 26 日から 28 日までの 2 泊 3 日、念願の京都の地において訓練を実施した。

参加者は、青森第 1 団がスカウト 11 名、リーダー10 名、秋田第 6 団がスカウト 5 名、リーダー6 名の計 32 名。

26 日は、午後 1 時過ぎに各団東本願寺に到着。青森は新幹線で、秋田は飛行機で、いずれも 6 時間程かけてはるばるやってきた。午後 1 時 30 分大寝殿で開所式。その後、諸殿拝観。枳殻邸にも行く。宿に戻って講師の鈴木君代さんから「いのち」についてのお話を聞く。

2 日目の 27 日は、東本願寺晨朝参拝（めちゃくちゃ寒い）。宿に戻って朝食後市内ハイクに出かける。テーマは「親鸞聖人」を探せ。３班に分かれ六角堂・青蓮院・大谷祖廟を入れて各班それぞれ計画したコースを回る。午前 9 時 30 分に出発し午後 5 時から 5 時半までの間に宿に帰ること。指定された 3 箇所では 課題の親鸞聖人を探すこと。二条城へ行く班。金閣寺や銀閣寺へ行く班。清水寺へ行く班。昼食は、コンビニのおにぎりで済ます班。円山公

園でちょっと早い桜を眺めながら屋台でとる班。　皆それぞれに市内ハイクを楽しんだ。

3 日目 28 日は、全員で太秦の映画村。そこで 昼食を済ませて解散。帰路に着く。青森第 1 団はまっすぐ JR 京都駅へ。秋田第 6 団は京福電車を楽しみ、また卓球少女 2 名のたっての頼みもあり、ちょっとマニアックではあるが白峯神社へも行く。往路同様空港バスには乗らず JR、地下鉄、モノレールを乗り継いで伊丹空港から能代へ戻った。

それぞれ思い出深い記念すべき京都での第 50 回奥羽大谷スカウト訓練であった。

[ここに入力]

BS 仏教章

大谷派 GS 仏教章

2015 年度
仏教章取得者

2015 年 7 月 1 日～2016 年 6 月 30日　教区順　32名

教　区	氏　　名	団　　名	教　区	氏　　名	団　　名
北海道	藤村　秀	札幌第４団	岡　崎	伊澤　一夢	西尾第１団
〃	ラトール斗士治	〃	〃	久野　真輝	〃
東　京	藤本佳奈子	日立第８団	〃	村松　祐陽	西尾第５団
〃	小川　太希	台東第４団	〃	稲垣　竣也	〃
〃	戸畑　幸治	北 第５団	〃	澤井　達也	〃
〃	神取　歩光	港第 16 団	〃	谷　亨斗	〃
〃	長家　綾音	板橋第 15 団	〃	黒野　朝日	〃
〃	七里　祐輔	横浜第 83 団	〃	杉山　仁彦	〃
〃	佐々木瑛太	柏 第１団	〃	牧野　壮真	〃
三　条	増川　柾樹	小千谷第１団	〃	近藤　健人	安城第１団
金　沢	岩川　泰樹	金沢第 17 団	〃	加納　史也	岡崎第 12 団
岐　阜	和田　鈴太	高山第２団	〃	吉山　和輝	安城第２団
岡　崎	二村晋太郎	岡崎第８団	〃	小林　千紗	GS 愛知県第 13 団
〃	渡辺　真帆	岡崎第８団	名古屋	河合　豪真	半田第３団
〃	松崎　久弥	〃	〃	中村和佳奈	瀬戸第１団
〃	植村　勇太	安城第１団	大阪	寺岡　陽之	大和高田第７団

名誉奉仕訓練に参加して帰敬式を受けましょう!!

今回も、３名が参加者の仲間に見守られながら、親鸞聖人の御真影の御前で、帰敬式を受式して仏弟子としての新しい歩みをはじめました。

これから名訓に参加しようとする方には、是非とも帰敬式の受式をお勧め申し上げます。

なお、2017 年 1 月から 20 歳以下の礼金が 5,000 円と半額に改定されます。

[ここに入力]

さぁ！夢の先へ　新しい歩みをはじめよう。

退任のご挨拶　　石神　明

18 年にも及ぶ協議会委員長の退任に当たり、今日までなんとか職責を全うできましたのは、皆様方のひとかたならぬご厚情とご指導の賜と厚く御礼申し上げます。

山形教務所長・東京教務所次長を歴任して 1975 年（昭 50）の帰郷と同時に、当時の協議会委員長であった三輪谷先生と森田事務局長から「特修所の所長をやらないか。」というお誘いではじめてこの協議会との接点をいただいたことです。特修所を日連の定型訓練の研修所として承認を得る交渉をされていたのですが、結果的に日連の定型訓練カブスカウト研修所ということで開催されました。このご縁で協議会の皆さんと今にいたるまで変わらぬ交友をいただいています。スカウト手帳の改定、結成 50 周年全国大会・記念式典の開催、福井・大阪地方名訓、12～16 回日本ジャンボリーそして、昨夏開催の WSJ では、宗派事務局や大谷スカウト諸氏のご協力をいただきながら日本仏教スカウト協議会の理事長として、信仰奨励ゾーン長をはじめ、世界仏教スカウトの集い、日本仏教スカウトレセプションを主催できたことはかけがえなのない経験となりました。これひとえに皆様の寛恕のおかげとご協力の賜とあらためて感謝申し上げます。新委員長のもと益々の活躍と発展を念じてご挨拶とさせていただきます。

このたび、８月５日付をもちまして、小松教務所書記を拝命いたしました. 大谷スカウト連合協議会の皆様におかれましては、着任当初から約４年にわたり、大変お世話になり、感謝申し上げます。名訓やジャンボリーなど、多くの研修会に関わらせていただき、本当に貴重な経験をさせていただいたと感じております。当初は、右も左もわからず、数多くご迷惑をおかけいたしましたが、皆様にお育ていただきましたこと、誠にありがとうございました。

ようやく皆様と仲良くなれた頃での異動で、寂しい気持ちでいっぱいですが、今後も新任地で精進してまいりたいと思います。最後に、大谷スカウト連合協議会の発展と、再会を念願いたしまして、離任のご挨拶とさせていただきます。本当にありがとうございました。　　山本　由惟

新任のご挨拶　　井上 法英

長い間ご苦労されてきた石神委員長の後継指名を受けて今般新委員長となった三条教区井上法英です。何卒よろしくお願い申し上げます。

1956 年。希望のともしびを掲げて発足した大谷スカウト連合協議会は、結成 60 周年を迎えます。今、その記念大会の準備を進めています。宗門の青少幼年教化・野外活動のセンターがある妙高高原池の平が主会場です。一年を通して自然にめぐまれたとても素敵なところです。是非ともお運びいただいて、仲間たちと出会いましょう。

60 周年の節目にあたり、大谷スカウト連合協議会結成の願いを確認しそして、はえある大谷スカウトの道を共にたゆまず進んでゆきたいものであります。今後とも、皆様方の益々の御協力をお願い申し上げ新任のご挨拶といたします。

委 員 長　井上　法英
副委員長　大橋　友啓
　　北　　秀継
　　小島　廣子

[ここに入力]

妙高高原 池の平

2017 年 8 月 3-6 日に開催予定の大谷スカウト連合協議会結成 60 周年記念全国大会の会場となる妙高高原池の平の一部をご紹介しま

60 周年記念大集会のメイン施設となる東本願寺池の平青少幼年センター

妙高高原スカイケーブル（赤倉温泉）有料

池の平の自然が学べるビジターセンター

いもり池から眺める妙高山

滝好きでなくてもしびれる

皆様方におかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

山本由惟書記の後任として大谷スカウト連合協議会の事務局を担当させていただくことになりました土室斉（つちむろ　さとし）と申します。出身は金沢教区であります。

スカウト活動はこれまで全くの未経験ということもあり、まだまだ勉強不足でご迷惑をおかけすることも多々あるかと思いますが、スカウト活動を通して皆様と共に親鸞聖人の教えを聞いていくため、全力を傾注して業務にあたらせていただく所存でございます。前任者同様にご指導ご鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。

土室　　斉

このページに掲載した写真は、妙高高原のホームページを使用しました。

2016 事業計画

7月7日	委員会（総会）
8月29―30日	協議会結成60周年記念大会開催候補地下見
9月18―19日	第27回大谷スカウトリーダー研修会
3月26-30日	第58回大谷スカウト名誉奉仕訓練
常任委員会	7月7日・7月8日・10月24日・以降3回開催

速報　大谷スカウト連合協議会結成60周年　メモリアル・グラン・ミーティング（開催趣旨）

結成60年を迎えた大谷スカウト連合協議会は、結成当時全国の真宗寺院を母体とする大谷スカウト団の指導者のスキルアップ・スカウト訓練・仏教章取得の奨励などの事業を通して、真宗大谷派の野外を教場とした青少幼年教化活動の屋台骨を支えてきた。

野外生活が単なるレクリエーションと化した今日にあっても、依然として教育キャンプのノウハウを持って、人間形成へのたゆみない歩みを続けている。この60年の歩みを確かめ、さらなるスカウト運動による青少幼年教化活動への力強い歩みを踏み出すために大谷スカウトとゆかりの深いここ妙高高原池の平に全国の大谷スカウトが一同に会して「記念大集会」を開催する。

- 大会の名称　大谷スカウト連合協議会結成60周年記念全国大集会
  呼称「メモリアル・グラン・ミーティング」　略称（MGM60）
- テ ー マ　「温故知新」
- 期　　日　2017年8月3日（木）～6日（日）　3泊4日　舎営
  リトルのつどい8月4日（金）～6日（日）2泊3日　舎営
- 会　　場　新潟県妙高市関川　妙高高原池の平温泉のペンションを宿舎とする。（分宿）

編集後記

新体制になって歩みだそうとする中、最近の常任委員会でネックとなるのが予算である。貴重な御依頼金の有効活用は必須であるが、研修会の受講者の減少からくる名訓スタッフの数が問題視されるようだ。スカウトの訓育に参加者の多少に関わらずパトロールシステム（班制度）は必至で、班が出来ればチューター（班担）が必要になる。58回を数える名訓では、14回当時の参加スカウト51名に対して、スタッフ13名。24回のスカウトは83名、スタッフ15名。38回参加者42名、スタッフ16名。最近になると、50回が17名に対してスタッフ19名と反転したが、スカウト教育のシステム上、参加者の増減に関係なくスタッフ数の増減には余り変動がないことが見て取れる。このことから16～17名が相当と考えられるが、ガールスカウトの参加人数によって若干の増が必要になることもある。

財政で「人の誕生」がかなうならそれでもいいが、現在の大谷スカウトの下支えとなっている指導者の皆さんの中には寺院子弟がいなく、会社勤めのかたわらを宗門スカウト育成の時間に充てていただいている方々が殆どである。同朋会館研修の引率や帰敬式受式の相談を引き受けるなど、大谷派の僧侶に代わって青少幼年教化の一端を担っていただいている現実がある。こうした指導者が育ってきた場所が名訓である。名訓がなかったら、大谷スカウトは空中分解していただろう。「人の誕生」を具現化してきたのが、スカウトの教育システムなのである。（大橋）

●発行日：2016年12月1日　●発行：大谷スカウト連合協議会　http://tanisco.o.oo7.jp/　☎075-371-9208 FAX075-371-9203
●事務局：〒600-8164　京都市下京区上柳町199　しんらん交流館（真宗教化センター）　真宗大谷派青少幼年センタースカウト係